

関東信越厚生局長 殿

開設者名 理事長 春日雅

独立行政法人 国立国際医療研究センター病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	94人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	172人	200人	372.0人	看護補助者	1人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	3人	11.2人	14.2人	理学療法士	9人	臨床検査技師	35人
薬 剤 師	32人	4.6人	36.6人	作業療法士	3人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	3人	その他	人
助 産 師	23人	人	23.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	722人	6.6人	728.6人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	8人
准 看 護 師	1人	人	1.0人	栄 養 士	人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	1人	0.8人	1.8人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	57人
管理栄養士	8人	2.4人	10.4人	診療放射線技師	38人	その他の職員	21人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	647.5人	2.5人	650.0人
1日当たり平均外来患者数	1,619.8人	76.8人	1,696.6人
1日当たり平均調剤数	1,369.4 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	44人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	22人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	55人	・原発性胆汁性肝硬変	148人
・全身性エリテマトーデス	230人	・重症急性膵炎	17人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	69人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	42人
・サルコイドーシス	128人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・特発性間質性肺炎	28人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	158人	・網膜色素変性症	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	63人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	0人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	129人	・神経線維腫症	0人
・大動脈炎症候群	20人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	29人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	7人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	14人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	49人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	18人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	32人
・悪性関節リウマチ	18人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	207人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・アミロイドーシス	51人	・肥大型心筋症	0人
・後縦靭帯骨化症	49人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・ミトコンドリア病	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	35人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	50人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	31人	・黄色靭帯骨化症	9人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	60人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人		

1894人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
全国のサトマイト胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究	吉澤 篤人	総合診療科	28,000,000	補委 厚生労働科学研究費
高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	河内 正治	麻酔科	24,636,000	補委 厚生労働科学研究費
糖尿病診療均てん化のための標準的診療マニュアル作成とその有効性の検証-ガイドラインを実用化するためのシステム・体制整備の視点から	野田 光彦	糖尿病	15,900,000	補委 厚生労働科学研究費
多施設共同研究を通じた新規治療戦略作成に関する研究	岡 慎一	ACC	12,050,000	補委 厚生労働科学研究費
安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	瀧永 博之	ACC	8,400,000	補委 厚生労働科学研究費
我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究	加藤 康幸	DCC	6,322,000	補委 厚生労働科学研究費
新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究	小林 信之	呼吸器内科	5,268,000	補委 厚生労働科学研究費
リンパ浮腫治療へのbreakthroughを目指してII	福田 尚司	心臓血管外科	5,200,000	補委 厚生労働科学研究費
南アジアと日本における若年冠動脈疾患患者の新しい危険因子の同定とその予防法の開発	諸井 雅男	循環器科	5,200,000	補委 科学研究費
				補委

計 9

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Symex Journal International	Fundamental Evaluation for the HIV Ag+Ab Screening Assay Kit by Automated Chemiluminescent Enzyme Immunoassay Analyzer "HISCL-2000i"	Tsuchiya Kiyoto	ACC
Internal Medicine	Value of Carotid Artery Tenderness for the Early Diagnosis of Takayasu Arteritis	Hayakawa Itaru	Department of Internal Medicine,
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	糖化ヘモグロビンは非糖尿病成人においても冠動脈疾患の複雑さと関連している(Glycated Hemoglobin is Associated with the Complexity of Coronary Artery Disease, Even in Non-Diabetic Adults)	Ikeda Nobutaka	循環器内科
The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	MC28480007<Pre 医中誌> Vaginal evisceration 3 years after abdominal hysterectomy and bilateral salpingo-oophorectomy	Orito Seiya	産科
Modern Rheumatology	無症候性陽電子放射断層撮影の自然経過 自己限定的リウマチ性多発筋痛症後の症候性巨細胞性動脈炎(The natural history of asymptomatic positron emission tomography: positive giant cell arteritis after a case of self-limiting polymyalgia rheumatica)	Yamashita Hiroyuki	膠原病科

Auris・Nasus・Larynx	声帯麻痺の病因についての45年以上のトレンドに関する単一施設分析(Single institutional analysis of trends over 45 years in etiology of vocal fold paralysis)	Takano Shingo	耳鼻咽喉科
Asian Pacific Journal of Disease Management	ウォーキングマイレージキャンペーン 情報通信技術(ICT)基盤プログラムにより開発した、歩数に応じて社会福祉組織に寄付を行うウォーキング啓発キャンペーン パイロット研究(The Walking Mileage Campaign: A Campaign Developed by an Information and Communication Technology (ICT)-based Program in the Workplace to Promote Walking by Making Donations to a Social Welfare Organization Based on Steps: A Pilot Study)	Yamamoto-Honda Ritsuko	糖尿病研究部
日本人工関節学会誌	TKA合併症 人工膝関節全置換術後の関節拘縮に対する鏡視下授動術例の検討	可知 芳則	整形外科
日本顎変形症学会雑誌	進行性/特発性下顎頭吸収におけるケモカイン受容体異常により生じる骨/軟骨減少に関する研究 (Study of Osteo-/Chondropenia Caused by Impaired Chemokine Receptor and for Progressive/Idiopathic Condylar Resorption)	Maruoka Yutaka	歯科口腔外科
消化器医学	消化管の慢性炎症と発癌 Sda糖鎖合成酵素遺伝子のDNAメチル化は潰瘍性大腸炎の予後を予測しうるマーカーとなりうるか?()	櫻井 俊之	消化器内科
医学検査	未治療症候性多発性骨髄腫における骨髄異形成の合併についての検討	手塚 俊介	中央検査部
医学と薬学	高血圧性腎症における柴苓湯の臨床的意義に関する研究	日ノ下 文彦	腎臓内科
アレルギー	オマリズマブ投与中に妊娠し出産しえた重症気管支喘息の1例	平嶋 純子	呼吸器内科
HIV感染症とAIDSの治療	HIV関連の腎障害	木内 英	エイズ治療・研究開発センター
臨床眼科	眼瞼Kaposi肉腫を契機にHIV感染が発見され免疫再構築症候群をきたした1例	水野 嘉信	眼科
Journal of Clinical Rehabilitation	リハサマリー作成にかかわる時間コストの前向き調査	村上 有佳	リハビリテーション科
Modern Rheumatology	Hemophagocytic lymphohistiocytosis complicated by central nervous system lesions in a patient with dermatomyositis: a case presentation and literature review	Yamashita Hiroyuki	膠原病科
Modern Rheumatology	Thrombotic thrombocytopenic purpura with an autoantibody to ADAMTS13 complicating Sjogren's syndrome: two cases and a literature review	Yamashita Hiroyuki	膠原病科
感染症学雑誌	日本人の三日熱マラリア・卵形マラリア症例に対するプリマキンの使用経験	小林 泰一郎	ACC
臨床放射線	緊急塞栓術により救命し得た脾動脈瘤破裂の1例	渡口 真史	放射線診断科
総合リハビリテーション	Charcot肩関節を呈した対麻痺患者の1例 肩懸垂装具を含めたリハビリテーションについて	竹田 恵利子	リハビリテーション科
日本外傷学会雑誌	昏睡の鈍的外傷患者に対する全身CTは死亡の減少と関連する	木村 昭夫	救命救急センター救急科
日本呼吸器外科学会雑誌	術前低肺機能の非結核性抗酸菌症に対して右肺全摘術を施行した1例	北沢 伸祐	呼吸器外科
形成外科	手掌に生じた異所性蒙古斑に対してQスイッチNd:YAGレーザー治療を行った1例	吉積 佳世	形成外科
DIAGNOSTIC MICROBIOLOGY AND INFECTIOUS DISEASE	Diagnostic accuracy of indirect immunofluorescence assay for intestinal invasive amebiasis and impact of HIV infection in a non-endemic country	Nagata, Naoyoshi	Dept Gastroenterol & Hepatol
CLINICAL INFECTIOUS DISEASES	Single Nucleotide Polymorphisms in ABCC2 Associate With Tenofovir-Induced Kidney Tubular Dysfunction in Japanese Patients With HIV-1 Infection: A Pharmacogenetic Study	Nishijima T	AIDS Clin

PLOS ONE	Predictive Clinical Factors in the Diagnosis of Gastrointestinal Kaposi's Sarcoma and Its Endoscopic Severity	Nagata, Naoyoshi	Dept Gastroenterol & Hepatol
JOURNAL OF CLINICAL ENDOCRINOLOGY & METABOLISM	Severely Fluctuating Blood Glucose Levels Associated with a Somatostatin-Producing Ovarian Neuroendocrine Tumor	Sugiyama T, Noda, Mitsuhiro	Dept Diabet & Metab Med
CLINICAL INFECTIOUS DISEASES	High Incidence of Renal Stones Among HIV-Infected Patients on Ritonavir-Boosted Atazanavir Than in Those Receiving Other Protease Inhibitor-Containing Antiretroviral Therapy	Hamada Y, Oka, Shinichi	AIDS Clin
Annals of Nuclear Medicine	The current status of an FDG-PET cancer screening program in Japan, based on a 4-year (2006-2009) nationwide survey	Minamimoto, Ryogo	Div Nucl Med, Dept Radiol
American Journal of Kidney Diseases	Association Between Abnormal Myocardial Fatty Acid Metabolism and Cardiac-Derived Death Among Patients Undergoing Hemodialysis: Results From a Cohort Study in Japan	Moroi, Masao	Dept Cardio
Aids	Once-daily darunavir/ritonavir and abacavir/lamivudine versus tenofovir/emtricitabine for treatment-naïve patients with a baseline viral load of more than 100 000 copies/ml	Nishijima T,	AIDS Clin
JOURNAL OF THROMBOSIS AND THROMBOLYSIS	Using fibrin degradation products level to facilitate diagnostic evaluation of potential acute aortic dissection	Hagiwara A	Dept Emergency Med & Crit Care
JOURNAL OF ATHEROSCLEROSIS AND THROMBOSIS	Genetic Impact on Uric Acid Concentration and Hyperuricemia in the Japanese Population	Kato, Norihiro	Res Inst, Dept Gene Diagnost & Therapeut
IMMUNOGENETICS	MxA transcripts with distinct first exons and modulation of gene expression levels by single-nucleotide polymorphisms in human bronchial epithelial cells	Noguchi S	Dept Resp Dis, Res Inst
HUMAN IMMUNOLOGY	Differential effects of a common splice site polymorphism on the generation of OAS1 variants in human bronchial epithelial cells	Noguchi S	Dept Resp Dis, Res Inst
JOINT BONE SPINE	Similarities and differences in fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography findings in spondyloarthritis, polymyalgia rheumatica and rheumatoid arthritis	Yamashita H	Div Rheumat Dis
ALLERGOLOGY INTERNATIONAL	Asthma Control Can Be Maintained after Fixed-Dose, Budesonide/Formoterol Combination Inhaler Therapy is Stepped Down from Medium to Low Dose	Hojo M,	Div Resp Med
Diabetes Metab Syndr Obes	Teneligliptin: a DPP-4 inhibitor for the treatment of type 2 diabetes.	Kishimoto M.	Department of Diabetes and Metabolic Medicine
J Infect Chemother	Combination of high-dose dexamethasone and antiretroviral therapy rapidly improved and induced long-term remission of HIV-related thrombocytopenic purpura.	Shindo T Oka S	AIDS Clinical Center,
Obesity (Silver Spring)	Adiponectin and Visceral Fat Associate with Cardiovascular Risk Factors.	Noda M.	Department of Clinical Research,
World J Gastrointest Endosc	Endoscopic submucosal dissection of multiple flat adenomas in the radiated rectum.	Naoki Asayama	Department of Gastroenterology and Hepatology,
Ann Nucl Med	Observer variation study of the assessment and diagnosis of incidental colonic FDG uptake.	Minamimoto R	Division of Nuclear Medicine, Department of Radiology

BMC Res Notes	Lower ratio of high-molecular-weight adiponectin level to total may be associated with coronary high-risk plaque	Moroi M,	Department of Cardiology,
Clin Infect Dis.	Prophylactic effect of antiretroviral therapy on hepatitis B virus infection.	Gatanaga H,	AIDS Clinical
Kansenshogaku Zasshi	Clinical experience of primaquine use for treatment of vivax and ovale malaria in Japanese travelers	Kobayashi T	Disease Control and Prevention
J Infect Chemother.	Urinary beta-2 microglobulin and alpha-1 microglobulin are useful screening markers for tenofovir-induced kidney tubulopathy in patients with HIV-1 infection: a diagnostic accuracy study.	Nishijima T	AIDS Clinical Center,
Obesity (Silver Spring).	Effect of longitudinal changes in visceral fat area on incidence of metabolic risk factors: The hitachi health study	Noda M.	Department of Clinical Research
PLoS One	Low-carbohydrate diets and all-cause mortality: a systematic review and meta-analysis of observational studies.	Noto H	Department of Diabetes and Metabolic Medicine
Intern Med	Idiopathic oropharyngeal and esophageal ulcers related to HIV infection successfully treated with antiretroviral therapy alone.	Hamada Y	Division of Infectious Diseases, Disease Control and
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Relationship between Arteriosclerosis Obliterans and the Ratio of Serum Eicosapentaenoic Acid to Arachidonic Acid.	Fukuda S	Department of Cardiovascular Surgery,
Clin Gastroenterol Hepatol	Combined endoscopy, aspiration, and biopsy analysis for identifying infectious colitis in patients with ileocecal ulcers	Nagata N	Department of Gastroenterology and Hepatology,
Nihon Naika Gakkai Zasshi	[Discussion meeting on the effect of social event over the practice of infectious diseases].	Ohmagari N,	Disease Control and Prevention Center
Nihon Naika Gakkai Zasshi	[Infectious diseases: progress in diagnosis and treatment. Topics; III. Emerging and re-emerging infectious diseases; 4. Emerging parasitic diseases].	Kato Y	Disease Control and Prevention Center,
Nihon Naika Gakkai Zasshi	[Infectious diseases: progress in diagnosis and treatment. Topics; III. Emerging and re-emerging infectious diseases; 1. Recent topics on HIV medicine].	Tanuma J	AIDS Clinical Center,
Int J STD AIDS.	Raltegravir can be used safely in HIV-1-infected patients treated with warfarin.	Honda H	AIDS Clinical Center
Patholog Res Int	False-Negative Results of Endoscopic Biopsy in the Diagnosis of Gastrointestinal Kaposi's Sarcoma in HIV-Infected Patients.	Nagata N	Department of Gastroenterology and Hepatology,
BMC Gastroenterol.	Systemic lupus erythematosus complicated by Crohn's disease: a case report and literature review.	Yamashita H	Division of Rheumatic Diseases,
J Infect Chemother.	Three cases of IMP-type metallo- β -lactamase-producing Enterobacter cloacae bloodstream infection in Japan.	Hamada Y	Division of Infectious Diseases, Disease Control and
Clin Res Hepatol Gastroenterol.	Synchronous gastric cancer presenting different pathological features depending on the involvement of Epstein-Barr virus infection.	Sekine K	Department of Gastroenterology and Hepatology,
Diabetes Ther.	Effect of the addition of sitagliptin and miglitol on insulin-treated type 2 diabetes.	Kishimoto M.	Department of Diabetes and Metabolic Medicine

Am J Hematol.	YM-175 induces apoptosis of human native monocyte-lineage cells via inhibition of prenylation.	Miwa A	Department of Hematology,
AIDS	Non-AIDS-defining hematological malignancies in HIV-infected patients: an epidemiological study in Japan.	Hagiwara S	Division of Hematology, Department of Internal medicine
Clin Gastroenterol Hepatol.	Fulminant amebic colitis with an atypical clinical presentation successfully treated by metronidazole.	Kawazoe A	Department of Gastroenterology and Hepatology,
World J Gastroenterol.	Fulminant gastrointestinal graft-versus-host disease concomitant with cytomegalovirus infection: case report and literature review.	Okubo H	Department of Gastroenterology and Hepatology

計65

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 中村 利孝
管理担当者氏名	各診療科科長、看護部長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 医事室 電子カルテ	年度ごとに文書保存 診療録 電子媒体
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書保存 電子媒体
	高度の医療の提供の実績	医事室	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事室	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	文書保存
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	人事課(職員係)
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理室
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理室
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
	第一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室
に掲げる	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	
体制の			
確保の			
状況			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	総務部長 大月 武
閲覧担当者氏名	総務課長 佐藤 星斗
閲覧の求めに応じる場所	第一会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績 (石澤患者相談専門職)

紹介率	72.1%	算定期間	平成24年11月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	4,027 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	4,803 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4,958 人	
	D: 初診の患者の数	14,314 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

① $A+B+C=13,783$ ② $B+D=19,117$ ③ $= (①/②) \times 100$

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理のための基本的考え方・ 医療安全管理体制の整備<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全推進委員会の設置2. 医療安全管理室の設置3. 医療安全管理規程4. 医療安全管理者の配置5. 医療安全推進担当者の配置6. 医薬品安全管理責任者の配置7. 医療機器安全管理者の配置8. 患者相談窓口の設置9. マニュアル等の作成・ 医療安全管理のための具体的方策の推進<ol style="list-style-type: none">1. 医療事故防止のための要点と対策の作成2. ヒヤリハット事例の報告及び評価分析3. 医療安全対策ネットワーク整備事業への協力4. 医療機能評価機構への医療事故事例の報告5. 医薬品・医療機器用具等安全性情報報告制度に関する報告6. 医療安全管理等のための職員研修・ 医療事故発生時の具体的な対応<ol style="list-style-type: none">1. 医療事故の報告2. 患者・家族への対応3. 事実経過の記録4. 警察への届出5. 医療事故調査委員会・ 医療事故の評価と医療安全対策への反映	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：医療安全推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理規程<ol style="list-style-type: none">1. 目的2. 基本理念3. 委員会の設置 原則月 1 回の定例会議4. 任務5. 所掌事務 対策の検討及び研究 分析及び再発防止策の検討 防止対策・改善策の実施状況の調査・見直し 職員に対する指示 総長に対する提言 啓発、教育、広報及び出版 医療訴訟に関すること その他	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回

<p>・ 研修の主な内容：①新規採用者オリエンテーション（随時） ②全職員対象医療安全研修（年10回）－職員年2回受講必須 「医療安全の取り組みを皆で共有しよう」をテーマに各部署から発表 「講義」：気管切開患者の気管カニューレの管理 安全な移乗 インスリンに関する注意事項 医療機器について 患者等の暴言・暴力対応マニュアルができました 等 ③トピクス医療安全研修（PICC研修・・・医師・看護師） ※別紙参照</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①インシデントレポートシステムに入力し報告書とする ②発生した事例は、委員会において原因分析を行う ③必要時外部委員を含む事故調査委員会の設置 ④リスクマネジメント部会での説明・指示・伝達 ⑤ヒヤリハットニュースの発行 ⑥全職員対象医療安全研修の実施 ⑦医療安全ポケットマニュアルの年1回の更新</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (5) 名 ・ 活動の主な内容： ①医療事故にかかる役割 発生時の報告・状況把握・診療記録と報告書作成の指導・患者家族の対応・医療安全推進委員会 召集・原因分析・警察や行政機関や報道機関等の対応 ②平常時の役割 ヒヤリハット報告対応・実態調査と予防活動への取り組み・情報管理及び情報発信・教育研修の 企画運営・研修への参加</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 国立国際医療研究センターにおける院内感染防止の目的2. 感染対策の基本的考え方3. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する方針4. 感染対策のための委員会等組織に関する基本事項5. 感染症発生状況に関する基本事項6. 感染症発生時の対応に関する基本事項7. 感染対策のための職員に対する研修に関する基本事項8. 感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 微生物室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析2. 薬剤部からの抗菌薬使用状況報告による耐性菌検出状況の分析3. ICTから血液培養、耐性菌院内発生状況、感染対策遵守状況の報告により、院内動向の分析4. ICTで検討した課題、提案事項などを審議、決定する5. マニュアル、規約等の最終決議	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 手指衛生キャンペーン開催しレクチャー2. インフルエンザ対策3. 結核・流行性ウイルス疾患	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 週1回のICTラウンドによる感染対策の実施状況の確認、環境のチェック、指導、フォローアップ2. 細菌検査室と協力し耐性菌等の発生状況を毎日確認、検出時は病棟へ連絡し対策を指導する3. 薬剤部と協力し抗菌薬の使用状況の確認、必要時介入を行う4. 抗菌薬適正使用推進のための感染症科コンサルテーション、血液培養陽性患者のラウンドと広域抗菌薬長期使用患者への介入5. 感染リンクナースの年間計画に基づく活動の実施6. マニュアルの見直し・改訂	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
・ 研修の主な内容：麻薬の取扱い等について（2回）、安全な静脈注射の実施（6回）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： ・ 病棟等巡視状況報告書による定数薬等の確認 ・ 医薬品の安全使用のための情報収集および伝達 ・ 薬剤業務チェックリストによる実施確認 ・ 職員に対する医薬品の安全使用のための研修 等	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) PMDAからの医薬品・医療機器情報サービスから、添付文書改訂上の情報を入手・配信している 2) 「緊急安全性情報」「安全性情報」などの緊急かつ重篤な情報については薬剤部ホームページや院内メールで情報提供し、関係診療科、処方医には病棟薬剤師からも直接情報提供する 3) 緊急性がある用法・用量の変更（アンカロン注）では、ホームページへの掲載、メール送信と同時に定数配置のある病棟・診療科に出向き、直接情報提供している	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 30 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 人工呼吸器の使用法2. 体外循環装置の説明3. 除細動器の使用法4. 輸液ポンプの使用法5. 血液浄化装置について6. 生体情報モニタについて	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (有)・ 保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 人工呼吸器の返却整備後点検および定期点検2. 除細動器の巡回点検、返却整備後および定期点検3. 閉鎖式保育器の返却整備後点検および定期点検4. 人工心肺装置の使用時および定期点検5. 血液浄化装置の使用前、使用後および定期点検6. その他医療機器の返却時整備後点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 「保守点検修理等依頼書」による不具合情報の収集と周知情報の報告2. 医療機器不具合情報の収集と周知情報の安全管理室報告3. リスクマネジメント部会への出席4. 呼吸療法サポートチームへの参加5. 医療機器安全性情報報告の実施6. 学会研究会参加による情報の収集	